

# 市政に対する

## 一般質問

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をたずねることができるものです。

6月定例会では、6月16日・17日の本会議で16人の議員から質問が行われ、論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です(掲載は質問順、5ページまで続きます)。

### 小園地区の安全・安心まちづくりに向けた対策を問う

公明党 井上 賢二

**問** 昨年12月3日のゲリラ豪雨は、市内各所に被害をもたらした。早園小学校北側住宅地でも浸水被害が発生したが、当時、学校北側の擁壁からは、雨水が滝のように流れ出ていた。二度と同じ被害が起こらないように具体的な対策が必要と思うがどうか。また、小園地区には高齢者憩の家が設置されていないが、これまでの検討経過は。今後、設置に向け、市はどのように関わっていくのか。さらに小園団地内の道路は、一部の幹線道路で改修が行われているものの、生活道路は老朽化が進んでいる。今後の舗装改修をどのように考えているか。

**答** 学校敷地外への雨水流出防止策として、北側擁壁の上に高さ約20センチのブロックを

約160戸にわたり設置する予定である。また、道路浸水対策として、周辺道路に横断側溝を3カ所設置した。高齢者憩の家は、約2年前に地域の各団体と市職員などが集まり検討をしたが設置に至っていない。話が具体化し、地域内の公共施設を利用するよう場合には、関係各課で調整に入りたい。小園団地内の道路は、今年度、舗装状況調査を実施する。来年度以降、調査結果を踏まえ舗装改修を計画的に実施していく。

(ほかに「福祉の向上について」「Web図書館について」を質問)



6月29日から7月5日まで開催された平和展(写真上)あやせっ子平和学習生が、市民の作成した折り鶴を広島平和記念公園に届けました(写真下)

### 東日本大震災を機会に市地域防災計画を見直す考えは

新政会 比留川政彦

**問** 東日本大震災では、かつてない大津波が発生し、東北地方太平洋側を中心に甚大な被害をもたらした。本市では深刻な被害はなかったが、今後、大震災が発生した際は、避難所生活が始まる可能性が

考えられる。震災後2、3日は市の備蓄品で対応することになると思うが、現在の備蓄品の状況は。他市では液化化が発生した地域がある。災害予防の観点から液化化マップを作成し、市民に周知する必要があると思うが市の考えは。また、県では今回の震災を受

### 震災時でも市役所の業務を継続する計画の策定を望む

公明党 松澤 堅二

**問** 東日本大震災で改めて防災への取り組みの重要性を痛感した。予防対策と発生後の応急対策を、市民とともに構築し、生命・財産を守り、安全安心を確かなものにする必要がある。そこで、不測の

事態が発生しても重要事業を継続できるよう業務継続計画を策定すべきと考えるがどうか。また、被災状況を入力することで、罹災証明の発行などを一元的に管理できる被災者支援システムの導入を考えたか。今回、防災行政無線の放送が聞こえにくいという話を聞いた。電話で放送の内容を確認できる音声サービスの導入を検討しないか。

**答** 今回の震災で生じた課題を整理し、地域防災計画の見直しを行う一方、被災しても実施すべき市の業務を選定し、優先順位の評価を行う業務継続計画を今年度中に策定する。被災者支援システムは、被災者台帳と被災家屋台帳の2つで構成されており、被災状況の記録や罹災証明発

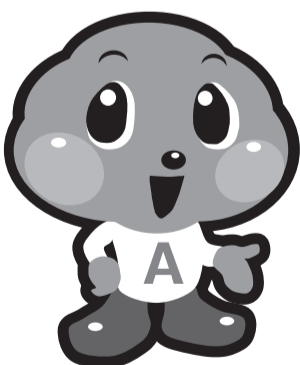
け、防災計画の見直しを行うとしている。本市の地域防災計画も見直す考えはあるか。

**答** 現在、小・中学校の体育館15カ所を一次避難所に指定し、ろ水器や暖房機などを備蓄している。また、非常用食料の備蓄は、2日分を3日分に増やし、乳児用の水の備蓄も行う。液化化は、県の危険度分布図から、市内で発生する危険性は低いと予想している。現在はマップ作成の予定はないが、県のデータが利用できないか研究する。地域防災計画は、県の計画修正を踏まえ、全般的な見直しを行う。なお、安否確認方法の確立や災害時要援護者対策などの必要性を感じており、計画に盛り込むことを考えている。

(ほかに「地域福祉計画について」「アグリパーク構想について」を質問)

行に活用できることから、災害時の備えとして導入を検討したい。音声サービスは藤沢市で導入しており、1日数千件の利用があったと聞いている。情報発信の手段はいろいろあるほうがよいと考えており、導入を検討したい。

(ほかに「コミュニティバスの利用促進について」を質問)



あやっこりー

